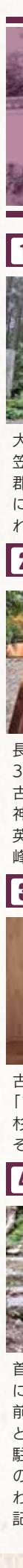


長崎街道を歩く

内野宿と飯塚宿



内野宿跡

内野宿は、江戸時代の宿場町で、現在も多くの古跡が残っています。

1 郡境石 大根地神社の鳥居の側に「御笠郡」、その対面に「穂波郡」の郡境石があります。郡境を明確にするために冷水峠に建てられました。

2 大根地神社 参勤交代の大名やオランダ商館長、伊能忠敬、吉田松陰、坂本龍馬、将軍吉宗への歴上象などが通っています。シーポルトはこの石疊道が雨で滑りやすく、ワラジが良いと「江戸参府紀行」に書いています。

3 首なし地蔵 長崎街道に面した鳥居から約3km登ると本殿に着きます。太古から天神7代、地神5代の神々を祭った靈山として知られ、英彦山や宝満山の山伏達の回峰駿道場でした。

4 オールロックの石橋 古い民話が語り継がれている「首なし地蔵」の祠は、前面は杉林・背面は竹林で囲まれています。

5 石畳 脇本陣（下の茶屋）であったと言われ、シーポルトが休息した伝承が残っています。現在の建物は明治末期の建築。

6 老松神社 宝治2年（1248年）太宰府神領として菅原道真公の神靈を勧請したのがはじまりです。

7 西構口跡 戦国期、大友宗麟の異母弟八郎が家督相続争いから逃れ当地へ、宗麟に寺を焼かれ、老臣を殺された八郎は仏門に入り庵を結んだのが由来です。

8 小倉屋 古い民話が語り継がれている「首なし地蔵」の祠は、前面は杉林・背面は竹林で囲まれています。

9 長崎屋 古い民話が語り継がれている「首なし地蔵」の祠は、前面は杉林・背面は竹林で囲まれています。

10 内野宿展示館 内野宿をビデオで紹介。史料等の展示を行っています。

11 正円寺 宝治2年（1248年）太宰府神領として菅原道真公の神靈を勧請したのがはじまりです。

12 麻屋 宿場の入り口としての機能があり、道の両側に白壁の堀が造られていました。長崎街道では長崎側を西、江戸側を東といいました。東西構口間は約600メートルです。

13 えびす碑 えびす碑と道標「太宰府天満宮米山越道」は宿場の繁榮と旅人の安全を祈願したと考えられています。

14 松屋 えびす碑と道標「太宰府天満宮米山越道」は宿場の繁榮と旅人の安全を祈願したと考えられています。

15 庄屋跡 山内家が庄屋をつとめ、造り酒屋を営んでいました。

16 宗賢寺 長崎方面からの飯塚宿への入口が西構口。一定の時刻になると門を開鎖し長崎奉行や大名の宿泊時などは厳重に警備し城郭の役目をしていました。

17 三尺坊秋葉権現 島津斉彬が「日の丸」を考案して飯塚の櫓屋という大きな醸造元に作成を依頼し、筑前苗染の「日の丸」が国旗と定めされました。櫓屋は平成20年の大火事で町並みが消失しました。

18 御茶屋跡（本陣） 内野宿ではたびたび火災があり、宗賢寺第6代大澄和尚は明和3年（1766年）遠江の國から火除けの神として三尺坊秋葉大権現を勧請して、祭祀を現在も行っています。12月24日の「麴断ち」も続けられています。

19 小路薬師堂 大いちょうのたものお堂には薬師様と福部神社と刻まれた石碑が祀られています。福部神社は菅原道真公の父であり、師匠でもある島田忠臣公が祭神です。

20 大いちょう 福岡県指定天然記念物（平成16年2月指定）樹齢約400年、幹周約7.6メートル。樹高30余メートル。御茶屋敷敷内にあった銀杏（昭和10年頃伐採）とで「内野の夫婦いちょう」と言われています。

21 西構口跡 長崎方面からの入口が西構口。一定の時刻になると門を開鎖し長崎奉行や大名の宿泊時などは厳重に警備し城郭の役目をしていました。

22 大神宮跡 宝永3年6月この場所で「元大神」と刻まれた光る石が発見され大神石と称して祀りました。明治4年裏祖八幡宮に合祀されました後、麻生酒造が祠の跡に井戸を掘り「神の井」と銘した清酒を造っていました。

23 白水橋跡 往時の飯塚川は白水橋で飯塚の宿場を横切り片島にその下流を配していました。飯塚川は40m以上の清流で郵便局裏では約56mありました。

24 櫓屋跡 島津斉彬が「日の丸」を考案して飯塚の櫓屋という大きな醸造元に作成を依頼し、筑前苗染の「日の丸」が国旗と定めされました。櫓屋は平成20年の大火事で町並みが消失しました。

25 勢屯り跡 長崎街道が本町筋を通っていた頃ここに恵比須様の石像がありました。宿場町の町人は宿場の繁盛を恵比須に求め、飯塚宿も街筋の中心部に恵比須の石像を安置していました。

26 和光山明正寺 本陣に宿泊した大名がここで隊列を整えて出発しました。

27 御茶屋跡・飯の山 豊臣家臣・木村長門守重成の子息が江戸時代、小林姓を名乗って「森崎屋」という大きな醸造元を営んでいました。ジャーナリストの木村太郎氏はこの子孫です。

28 飯塚山太養院 飯塚最古のお寺で器運山香積寺と号していますが、慶長5年黒田長政の命により今の号に改めました。寛永17年黒田忠之が御茶屋を設けるために現在地に移転しました。

29 恵比須石跡 長崎街道が本町筋を通っていた頃ここに恵比須様の石像がありました。宿場町の町人は宿場の繁盛を恵比須に求め、飯塚宿も街筋の中心部に恵比須の石像を安置していました。

30 森崎屋跡 飯塚宿は東構口のはずれにオランダ屋敷があり、ケンペル、チヂング、ソース、フィッセル、シーポルトなどの旅行記録が残っています。

31 真福寺 本陣に宿泊した大名がここで隊列を整えて出発しました。

32 黒ボスト 明治寺の過去帖に享保14年に八代將軍吉宗に献上された象が通った記録があります。寒い時期だったので石炭を燃やして暖めたそうです。

33 中茶屋・からくり時計 建久2年聖光上人が明月寺再興の折、ここに居をかまえ道場としました。その後「潤野が原の戦い」で焼かれましたが慶長10年黒田長政により再建されました。

34 問屋跡 長崎街道が本町筋を通っていた頃ここに問屋場と馬立所近くの川岸にありました。問屋場は店舗や倉庫で、馬立所は問屋場と馬立所近くの川岸にありました。問屋場は店舗や倉庫で、馬立所は問屋場と馬立所近くの川岸にありました。

35 森崎屋跡 長崎街道が本町筋を通っていた頃ここに問屋場と馬立所近くの川岸にありました。問屋場は店舗や倉庫で、馬立所は問屋場と馬立所近くの川岸にありました。

36 東構口跡 飯塚市幸田。明治期に建てられ、大正・昭和期に増改築されました。近代と築造として、その柱を凝らした豪邸は、広大な庭園とともに歌人柳原白蓮が日常起居（生活）した醤油醸造として飯塚に残る貴重な近代化・石炭遺産であり、「筑鉄王伊藤伝右衛門」の功績を伝える唯一の文化遺産です。令和2年12月に国の重要文化財（建造物）に指定されました。

37 貞月樓跡 元禄年間高野山本格院の和尚が庵を設けて地人に与え高野庵と称しました。以後、宮の下の弘法様として尊敬されています。約100年後の寛政の飯塚絵図には高野庵、大師堂が描かれています。

38 裏祖八幡宮 飯塚最古のお寺で器運山香積寺と号していますが、慶長5年黒田長政の命により今の号に改めました。寛永17年黒田忠之が御茶屋を設けるために現在地に移転しました。

39 オランダ屋敷跡 飯塚宿は東構口のはずれにオランダ屋敷があり、ケンペル、チヂング、ソース、フィッセル、シーポルトなどの旅行記録が残っています。

40 観音寺 飯塚川を下していた川瀬を繋ぐために使われた石柱で、もともとは問屋場と馬立所近くの川岸にありました。問屋場は店舗や倉庫で、馬立所は問屋場と馬立所近くの川岸にありました。

41 砂石 飯塚川を下していた川瀬を繋ぐために使われた石柱で、もともとは問屋場と馬立所近くの川岸にありました。問屋場は店舗や倉庫で、馬立所は問屋場と馬立所近くの川岸にありました。

42 飯塚市歴史資料館 立岩遺跡から発掘された前漢鏡をはじめ旧石器時代から近代の石炭遺産で、郷土の考古・歴史・民俗・炭坑の貴重な資料を多数展示。中國西安市との友好関係をしめす資料なども展示しています。

43 旧伊藤伝右衛門邸 ここにあった島田農販店に明治34年に森崎屋が宿泊しました。

44 旧松喜醤油屋 豊臣家臣・木村長門守重成の子息が江戸時代、小林姓を名乗って「森崎屋」という大きな醸造元を営んでいました。ジャーナリストの木村太郎氏はこの子孫です。

長崎街道沿いで行われているイベントや催しのご案内

Event calendar

2月 いいづか雛のまつり 桃の節句 雛祭り時期に、旧伊藤伝右衛門邸、市内商店街など市内各地で雛人形の展示や催しが開催されます。

4月 天皇杯・皇后杯 飯塚国際車いすテニス大会 (JapanOpen) 世界4大会（グランドスラム）に次ぐ、ITF（国際テニス連盟）スーパーシリーズに格付けされているアジア最高峰の車いすテニス大会。毎年パラリンピックと同じ顔触れの世界トップランナーが運営に携わり、地域挙げてのホスピタリティーは「イヅカ方式」とも呼ばれ、国際テニス連盟からも選手からも高い評価を受けている。

5月 飯塚新人音楽コンクール 毎年5・6月に若手音楽家の登竜門として、ピアノ部門と声楽部門で予選と本選が開催される音楽コンクールです。（飯塚文化連盟主催）

7月 飯塚山笠 飯塚山笠は、江戸時代享保年間に始まった祇園祭が由来と言われ、まちは活気つき大きい賑わいです。

8月 飯塚納涼花火大会 夏の夜空を美しく染める花火大会が、毎年飯塚遠賀川中之島にて、盛大に開催されています。

9月 大分の獅子舞 大分の獅子舞は享保9年（1724年）に大分八幡宮放生会で初めて奉納されて以来、現在に至るまで守り伝えられている福岡県を代表する獅子舞の一つです。毎年9月最終日・大分八幡の放生会で奉納されます。

10月 筑前のいいづか街道まつり 商店街を中心に、10月下旬に開催。様々な衣装に扮した市民らの時代仮装行列、踊りの競演会などが行われます。

長崎街道と筑前六宿 福岡県は、九州の玄関口として、江戸時代の旧街道（往還）が多く交差していました。その中でも長崎街道は江戸時代、五街道に次ぐ脇街道として、小倉・門司大里から天領で海外貿易港長崎までの道、参勤交代道として、九州の主要幹線でした。また、多くの旅人、文物・情報が往来し、南蛮菓子や西洋技術など海外からの文化や情報が沿線にいち早く伝わった文明の道としても知られています。

特に、筑前国、佐賀藩領内に設置された筑前二十七宿の内、長崎街道筋は、筑前六宿（黒崎・木屋瀬・飯塚・内野・山家・原田の6つの宿駅）として、にぎわい栄えました。

